



平成30年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年2月7日

上場会社名 セーレン株式会社

上場取引所 東

コード番号 3569 URL <http://www.seiren.com>

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼最高経営責任者 (氏名) 川田 達男

問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員 グローバル総務・経理・人事本部長 (氏名) 勝木 知文

TEL 0776-35-2111

四半期報告書提出予定日 平成30年2月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	84,561	6.2	8,172	9.7	8,404	5.6	5,575	1.4
29年3月期第3四半期	79,626	0.1	7,449	21.3	7,962	19.9	5,656	18.1

(注)包括利益 30年3月期第3四半期 6,952百万円 (%) 29年3月期第3四半期 184百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	93.30	92.73
29年3月期第3四半期	94.65	94.22

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第3四半期	120,697	76,430	62.7	1,265.59
29年3月期	112,588	71,375	62.8	1,182.80

(参考)自己資本 30年3月期第3四半期 75,638百万円 29年3月期 70,690百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		12.00		18.00	30.00
30年3月期		15.00			
30年3月期(予想)				15.00	30.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	115,000	6.4	10,500	8.8	10,600	3.1	7,100	1.1	118.80

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料10ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

30年3月期3Q	64,633,646 株	29年3月期	64,633,646 株
30年3月期3Q	4,868,709 株	29年3月期	4,868,604 株
30年3月期3Q	59,764,991 株	29年3月期3Q	59,760,879 株

期末自己株式数

期中平均株式数(四半期累計)

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

【添付資料】

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における日本経済は、企業収益や雇用環境の改善を背景に、景気は緩やかな回復基調が続き、個人消費についても堅調に推移しました。世界経済は、中国や新興国経済の成長鈍化、先進諸国の政策動向、テロなどが及ぼす影響も不透明であり、今後の方向性を注視していかなければならない状況にあります。

そのような環境の中、当社グループでは、「21世紀型企業への変革！」を中期方針に掲げ、変化し続ける経営環境においても、常にお客様のニーズに応え、かつ安定した収益確保と継続的な成長を果たすため、“新規事業の創出”と“グローバル事業の拡大”を柱とした中期事業戦略を推進しております。併せて、戦略遂行に必要な人材育成や組織機能の拡充、さらには生産性向上・業務の効率化改善、徹底した経費削減などによる収益力強化を図り、企業体質の強化に取り組んでおります。

当第3四半期の連結業績は、売上高 845 億 61 百万円（前年同期比 6.2%増）、営業利益 81 億 72 百万円（同 9.7%増）、経常利益 84 億 4 百万円（同 5.6%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益 55 億 75 百万円（同 1.4%減）となりました。売上高、営業利益、経常利益とも6期連続の増加となり、営業利益、経常利益については第3四半期として3期連続で最高益を更新しました。

〔セグメント別の業績概況〕

(車輛資材事業)

国内事業では、新車販売が堅調に推移する中、“革を超える新素材”「クオーレ®」や瞬間消臭機能の「イノドル®」、防汚機能の「エラッセ®」、ステアリング用の夏冬快適素材「クオーレモジュール®S」など、車輛の室内空間を快適にする高付加価値商品群が順調に推移し、ビスコテックス加飾パネルについても、堅調に推移しました。しかしながら、一方で一時的なエアバッグの受注減などの影響を受け、国内事業は前年同期比で若干の減益となりました。

海外事業においては、タイのエアバッグ事業が苦戦しましたが、米国と中国において自動車販売台数が順調に推移したことや、「クオーレ®」をはじめとする差別化商品が大きく売上を伸ばしたことが寄与し、海外事業全体では増収・増益を達成することができました。

また、海外新拠点として、2013 年末にインド、インドネシア、2015 年に河北（中国）、そして 2016 年にメキシコと順次立ち上げてきましたが、すべて当初計画以上で進捗しております。特に今後の増産対応に向け、蘇州とメキシコにおいて“革を超える新素材”「クオーレ®」の生産ラインを増設、並びに河北においてエアバッグ工場の建設を、前倒しで着手しております。

当事業の売上高は 491 億 49 百万円（前年同期比 8.9%増）、営業利益 50 億 41 百万円（同 6.7%増）となりました。

(ハイファッション事業)

国内事業では、消費者の節約志向は依然強く、当社グループの主要顧客である国内アパレルブランドを取り巻く環境は厳しい状況が続いております。

当社グループのファッション衣料向けテキスタイルおよび製品販売事業においては、「VISCOTECS®」等身大CAD上で具体的な製品イメージを描きながら企画した差別化デザインを、糸から縫製までのグループ一貫機能と結び付けて小ロット・短納期・在庫レスで最適生産を行うなど、お客様のニーズに対応し健闘してきました。また、当社グループのニット技術と加工技術を駆使したインナー衣料向け差別化素材の製造・販売も堅調に推移しており、今後更に拡大する市場ニーズに対応すべく、目下、国内工場および海外子会社のSaha Seiren Co., Ltd.（タイ）において独自編機の増設を進め、生産能力の増強に着手しております。しかしながら、セグメント全体においては、国内市場の消費マインド低迷の影響を受け、数量ダウンをカバーするにまで至らず、前年同期比で減収・減益となりました。

当事業の売上高は183億97百万円（前年同期比3.8%減）、営業利益は4億50百万円（同27.5%減）となりました。

(エレクトロニクス事業)

繊維と金属の複合化技術により差別化を高めた導電性素材「プラット®」は、より付加価値を高めるべく部品化・製品化を進めております。中でも、スマートフォン、タブレットやゲーム機への新規採用が増加し、特に薄型電極材が大きく売上高を伸ばしました。KBセーレン(株)では、高性能ワイピングクロス「ザヴィーナ®」が堅調に推移し、スーパー繊維の「ゼクシオン®」および「グラディオ®」についても、用途開発の進捗とともに採用件数が増えております。

また、海外で繊維機械の製造販売事業を展開する世聯電子(蘇州)有限公司(中国)において、高性能差別化機種の販売拡大が進み、増益となりました。

当事業の売上高は60億84百万円(前年同期比35.6%増)、営業利益は14億58百万円(同96.0%増)となりました。

(環境・生活資材事業)

新設住宅着工戸数は昨年比微減となる中、当セグメント主力のハウジング資材事業では、優れた省エネ性能をもつ遮熱型ハウスラップ材や遮熱・高止水型ルーフィング材をはじめ、当社グループ独自の差別化商品群が売上高を伸ばしました。

また、新たな事業領域である環境・土木分野においては、独自の繊維技術により商品化した防草シート「グラスガード®」の業界認知度を増し、さらなる販売拡大を進めております。

健康・介護事業では、昨年来続いておりました診療報酬の改定に伴う施設等での商品買い控えの動きも弱まり、新規案件獲得により増収・増益となりました。

当事業の売上高は55億66百万円(前年同期比4.3%増)、営業利益は6億78百万円(同19.0%増)となりました。

(メディカル事業)

当社の独自技術で商品化した、繭から生まれた天然成分「ピュアセリシン™」配合のコモエース化粧品は、自社サイトや百貨店常設店舗における販売強化に加え、プレミアム商品などの販売が好調に推移しました。

卓越した消臭機能を持つアンダーウェアシリーズ「デオエスト®」は、さらなる売上高拡大を図るため、顧客ニーズにマッチした新商品投入を継続しつつ、メディア展開を始めとするプロモーションに注力し販売拡大を進めております。

また医療資材分野では、KBセーレン(株)の差別化原糸をはじめとするグループ一貫機能を活かした差別化商品が売上高を伸ばしましたが、薬価改定の影響により、一部の医療用製品において既存品の受注減少がありました。

当事業の売上高は46億69百万円(前年同期比2.6%減)、営業利益は12億58百万円(同3.2%減)となりました。

(その他の事業)

(株)ナゴヤセーレンの不動産賃貸管理事業やセーレンコスモ(株)の人材派遣事業が堅調に推移しました。

当事業の売上高は6億94百万円(前年同期比7.7%減)、営業利益は4億6百万円(同6.1%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、現金及び預金などの流動資産が増加し、全体で前連結会計年度末と比較して81億9百万円増加の1,206億97百万円となりました。負債の部は、短期借入金などの流動負債の増加により、30億54百万円増加し、442億66百万円となりました。純資産は、利益剰余金の増加などにより50億54百万円増加し、764億30百万円となりました。

キャッシュ・フローの状況につきましては、当第3四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物の残高は156億7百万円となり、前連結会計年度末より34億4百万円増加しました。

「営業活動によるキャッシュ・フロー」は、79億55百万円の収入(前年第3四半期連結累計期間は84

億1百万円の収入)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益 81 億 39 百万円、減価償却費 34 億 97 百万円などによるものです。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、45 億 5 百万円の支出（前年第3四半期連結累計期間は 19 億 82 百万円の支出）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出 34 億 68 百万円などによるものです。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、3 億 20 百万円の支出（前年第3四半期連結累計期間は 44 億 3 百万円の支出）となりました。これは主に、配当金の支払 19 億 86 百万円などによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきまして、平成 29 年 11 月 9 日に発表した業績予想を据え置くものとします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,838	17,535
受取手形及び売掛金	25,322	27,116
有価証券	—	100
商品及び製品	9,388	9,684
仕掛品	2,732	2,978
原材料及び貯蔵品	4,114	3,942
その他	2,812	3,697
貸倒引当金	△10	△10
流動資産合計	58,197	65,043
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	22,246	22,581
機械装置及び運搬具(純額)	9,824	9,488
工具、器具及び備品(純額)	469	466
土地	10,175	10,249
建設仮勘定	1,517	1,762
有形固定資産合計	44,233	44,548
無形固定資産	2,600	2,665
投資その他の資産		
その他	7,580	8,463
貸倒引当金	△22	△23
投資その他の資産合計	7,557	8,439
固定資産合計	54,391	55,653
資産合計	112,588	120,697
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	15,572	16,933
短期借入金	2,918	5,853
未払法人税等	1,022	698
役員賞与引当金	120	—
賞与引当金	1,233	537
その他	4,590	5,484
流動負債合計	25,456	29,507
固定負債		
長期借入金	8,195	6,927
役員退職慰労引当金	161	161
退職給付に係る負債	5,655	5,748
その他	1,744	1,921
固定負債合計	15,755	14,758
負債合計	41,212	44,266

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	17,520	17,520
資本剰余金	16,801	16,801
利益剰余金	38,218	41,821
自己株式	△3,904	△3,905
株主資本合計	68,634	72,238
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,512	2,255
為替換算調整勘定	314	980
退職給付に係る調整累計額	228	163
その他の包括利益累計額合計	2,055	3,400
新株予約権	273	362
非支配株主持分	412	429
純資産合計	71,375	76,430
負債純資産合計	112,588	120,697

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	79,626	84,561
売上原価	57,973	61,534
売上総利益	21,653	23,026
販売費及び一般管理費	14,204	14,854
営業利益	7,449	8,172
営業外収益		
受取利息	168	172
受取配当金	90	109
為替差益	185	—
その他	157	182
営業外収益合計	601	464
営業外費用		
支払利息	49	38
為替差損	—	168
その他	38	24
営業外費用合計	88	231
経常利益	7,962	8,404
特別利益		
固定資産売却益	7	4
その他	0	—
特別利益合計	7	4
特別損失		
固定資産処分損	14	28
投資有価証券評価損	0	155
投資損失引当金繰入額	—	76
その他	0	10
特別損失合計	15	269
税金等調整前四半期純利益	7,955	8,139
法人税等	2,281	2,545
四半期純利益	5,674	5,593
非支配株主に帰属する四半期純利益	17	17
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,656	5,575

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
四半期純利益	5,674	5,593
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	525	743
為替換算調整勘定	△6,336	679
退職給付に係る調整額	△47	△64
その他の包括利益合計	△5,858	1,358
四半期包括利益	△184	6,952
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△151	6,920
非支配株主に係る四半期包括利益	△32	31

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	7,955	8,139
減価償却費	3,423	3,497
固定資産処分損益(△は益)	7	23
投資有価証券評価損	0	155
貸倒引当金の増減額(△は減少)	0	0
投資損失引当金の増減額(△は減少)	—	76
賞与引当金の増減額(△は減少)	△636	△695
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	5	0
受取利息及び受取配当金	△259	△281
支払利息	49	38
為替差損益(△は益)	1	△108
売上債権の増減額(△は増加)	△1,407	△1,678
たな卸資産の増減額(△は増加)	△637	△352
仕入債務の増減額(△は減少)	1,362	1,268
未払消費税等の増減額(△は減少)	76	△50
その他	813	310
小計	10,755	10,342
利息及び配当金の受取額	265	281
利息の支払額	△52	△40
法人税等の支払額	△2,567	△2,628
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,401	7,955
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△3,655	△3,468
有形固定資産の売却による収入	27	12
有価証券及び投資有価証券の取得による支出	△791	△516
有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入	1,000	—
定期預金の純増減額(△は増加)	1,822	△292
その他	△384	△240
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,982	△4,505
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△400	2,900
長期借入金の返済による支出	△2,429	△1,233
配当金の支払額	△1,493	△1,972
非支配株主への配当金の支払額	△77	△14
その他	△1	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,403	△320
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,989	274
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	26	3,404
現金及び現金同等物の期首残高	9,476	12,203
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,502	15,607

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント(注)1						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	車両資材	ハイファ ッション	エレクト ロニクス	環境・ 生活資材	メディカル	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	45,134	19,121	4,486	5,337	4,794	78,874	752	79,626	—	79,626
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	246	0	—	246	459	706	△706	—
計	45,134	19,121	4,733	5,337	4,794	79,121	1,211	80,332	△706	79,626
セグメント利益	4,723	620	743	569	1,300	7,958	433	8,391	△942	7,449

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント(注)1						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	車両資材	ハイファ ッション	エレクト ロニクス	環境・ 生活資材	メディカル	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	49,149	18,397	6,084	5,566	4,669	83,867	694	84,561	—	84,561
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	0	7	289	—	0	297	944	1,241	△1,241	—
計	49,149	18,404	6,373	5,566	4,670	84,164	1,638	85,803	△1,241	84,561
セグメント利益	5,041	450	1,458	678	1,258	8,886	406	9,293	△1,121	8,172

(注) 1. 各報告セグメント区分の主な製品等は下記のとおりであります。

- (1) 車両資材……………自動車・鉄道車輛等内装材(シート材、エアバッグ、加飾部品)
- (2) ハイファッション……………各種衣料製品、衣料用繊維加工
- (3) エレクトロニクス……………ビスコテックス・システム及びサプライ、工業用ワイピングクロス、電子機器
- (4) 環境・生活資材……………建築用資材、インテリア用資材、健康・介護商品、エコ関連資材
- (5) メディカル……………化粧品、浄水器及びフィルター、医療用製品

なお、「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代理業、人材派遣事業、不動産賃貸管理事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用(前第3四半期連結累計期間997百万円、当第3四半期連結累計期間1,178百万円)が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない総務部門などの管理部門に係る費用であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。